宮柊二記念館だより

２０２２．３．２５
第 56 号
発行　宮柊二記念館
TEL・FAX
025－794－3800

第27回宮柊二記念館全国短歌大会の選者講評をユーチューブでご覧いただけます。
宮柊二記念館ホームページからご覧ください。

短歌の力

今年度の短歌大会も一万首を超える応募をいただきました。応募歌をデータ化する過程で、全ての短歌に三度、四度と目を通します。

昨年度に続いて今年度もコロナ禍を詠んだ歌がたくさんありました。ジュニア部門の作品を読んでいて気づいたことがあります。昨年度はコロナ禍を嘆く歌が多かったのですが、今年度はコロナ禍を冷静に受け止め、コロナ禍の中での生活を発信している歌が多いということです。

例えば、現在の中学二年生は、コロナ禍の中学校生活しか知りませんし、中学三年の年もコロナと無縁ではいられないでしょう。小学生や高校生も同様です。授業が制限され、学校行事が制限され、部活動が制限され、友と語り合うことすら制限される生活。今、子どもたちは、大人が経験したことのない学校生活を送っているのです。ただ、前述したように同じくコロナ禍を詠んだ歌であっても、昨年度と今年度とでは歌い方が違っているように思います。そんな子どもたちのたくましさにホッとしますし、感激します。さらには、子どもたちの複雑な思いを受け止め、吐き出させてくれる短歌に感謝します。

来年度もたくさんの短歌を読ませていただけることでしょう。今から楽しみにしています。

さて、宮柊二記念館は、来年度開館三十周年を迎えます。建物も三十年経つと疲労が蓄積します。そこで、昨年度から施設・設備の改修・更新を進めています。まずは、大切な資料を保管する収蔵庫。そして、来館者をお迎えするホール、展示室。さらには、敷地正面の看板や墓所の案内表示など。少しずつ整備を進めています。

また、令和四年度は、宮柊二生誕百十年の年です。宮柊二と宮柊二記念館の節目の年に関連する展示を準備しています。少しきれいになった宮柊二記念館をお訪ねいただければ幸いです。

報告

第二十七回宮柊二記念館全国短歌大会

応募総数 一二，五三九首

【一般の部】

最優秀賞
シャガールの絵の花嫁は空に舞ひ吾子の挙式はコロナ禍にとぶ　堀口　良作　新潟県糸魚川市

選者賞（川野里子 選）
親不知子不知といふ崖ありて家の中にもこの昼に立つ　佐藤多佳子　新潟県長岡市

選者賞（宮里信輝 選）
自分らでやり遂げねばとふ若者は廃炉工学出身と聞く　島田　和生　神奈川県横浜市

魚沼市長賞
ベランダのブルーベリーを食べたのはカラスかハトか青い小鳥か　田中亜紀子　三重県津市

新潟日報社賞
声の出ぬ母からたまに掛かりくる私が話すだけなる電話　木村　圭　新潟県南魚沼市

【ジュニア部門（小学生の部）】

選者賞（川野里子 選）
木にかくれ長い間待ってたら次の遊びが始まっていた　石田啓士郎　新潟大学附属長岡小学校

選者賞（宮里信輝 選）
太陽もきっとさびしい時があるでもせいいっぱい世界を照らす　西澤　沙良　にしみたか学園三鷹市立井口小学校

魚沼市長賞
おりがみで小さいつるをおってみた自分のゆびが大きく見えた　角屋　璃音　魚沼市立堀之内小学校

新潟日報社賞
茶郷川はじめの一てき大発見ちょろちょろ流れいつかは海へ　糸井　陸　小千谷市立小千谷小学校

【ジュニア部門（中学生の部）】

最優秀賞
逆立で見える世界が異次元に自分一人がとりのこされる　吉田　迅　魚沼市立堀之内中学校

選者賞（川野里子 選）
ターザンになるため庭を走ってた近所の視線心に刺さる　井口清太郎　魚沼市立小出中学校

選者賞（宮里信輝 選）
太陽が毎日ずっと働いて植物たちを大きく育てる　櫻井　佳輝　魚沼市立堀之内中学校

魚沼市長賞
北の地は見わたしきれぬ銀世界父はぽつんと職場に向かう　服部　夢歩　中央大学附属横浜中学校

新潟日報社賞
雨あがり葉の上にある水滴が太陽うつし一人輝く　佐藤こゆき　中央大学附属横浜中学校

【ジュニア部門（高校生の部）】

選者賞（川野里子 選）
ディズニーで家族の写真を撮るほどに後ろに見えるミッキーの嘲笑　梅本太千樹　神奈川県立鎌倉高等学校

選者賞（宮里信輝 選）
日常でいつも疑問に思うことこの日常はなぜあるのだろう　岡部　恵永　新潟県立小出高等学校

魚沼市長賞
ひとよ、ひとよに、ひとみごろ、ひとみを僕は君をずっと探している　中原　美緒　神奈川県立七里ガ浜高等学校

新潟日報社賞
妹に「大きくなったら何になる？」「トマトー」その夢叶うといいね　森山　知香　新潟県立小出高等学校

第二十七回宮柊二記念館全国短歌大会は、選者に川野里子先生（かりん）、宮里信輝先生（コスモス短歌会）をお迎えして実施いたしました。前年度を二千首程上回る一二，五三九首の応募をいただき、平成二十七・二十八年度に次いで、三番目に多い歌数となりました。たいへんありがとうございました。

一方、十一月十三日に予定していた表彰式は、昨年に引き続き中止といたしました。選者の先生方から直接指導・講評いただくことはできませんでしたが、両先生による講評を魚沼市公式ユーチューブチャンネルで配信しております。宮柊二記念館ホームページからご覧ください。

さて、令和四年度・第二十八回宮柊二記念館全国短歌大会は、五月一日から応募の受付を開始します。締め切りは、一般部門七月三十一日、ジュニア部門九月五日です。準備が出来次第、宮柊二記念館ホームページに実施要項・応募用紙を掲載いたしますのでご利用ください。

選者は、大下一真先生（まひる野）と水上比呂美先生（コスモス短歌会）にお願いいたしました。大勢の皆様の参加をお待ちしています。

第27回　短歌大会　応募状況

区　分	応募作品数	応募者数
一般の部	979首	429人
ジュニアの部	11,560首	5,764人
小学生	1,869首	886人
中学生	5,051首	2,544人
高校生	4,640首	2,334人
総　数	12,539首	6,193人

【選者のことば】

鮮度と問い

川野里子

率直に楽しい選歌だった。膨大な数の作品だが、つい、「惜しい」とか「やったね」などと一首一首と対話してしまう。どれだけ数が多くても一首一首との出会いと別れを繰り返すのが選歌という仕事だからだ。いい作品というのは、いい出会いができ、かつ何度でも読み直したい作品ということになる。出会いには新鮮さがとても重要だ。それは小学生から一般まで年齢を問わない。初めて出会ったと思えるような言葉、表現、主題には思わず目が留まる。それは目を引くための言葉というのではなく、作者固有の感受性や驚き、悲しみ、喜びが含まれていることが大事だ。

小学生や中学生、高校生の場合、当然短歌には馴染みがない。だから多少形式をはみ出していても構わないと考えている。短歌という定型詩は自由な心を型に嵌めるためにあるのではなく、心と言葉とをさらなる高みへと飛躍させるスプリングボードだからだ。定型詩との出会いによって知らなかった自分の感性や考え、言葉の面白さに気づけた作品はやはり輝いている。

一般の部の作品には鮮度の良さという観点に加えて短歌という形式との豊かな問答の感じられる作品を選んだ。人生経験の中で蓄えられてきた人間観、おりおりに出会った喜びや悲しみが自分の目と感性と言葉で表現されている作品には心が動く。短歌に長年取り組んできた方にとって一番の宿題は新たな角度や言葉の魅力をどう見出してゆくかだろう。今回の選では型通りの心がどこかで見たような表現になった作品は入選していない。事物に真剣に向き合っているとき、刻々と世界も人間も新鮮で、それを描きとめることが短歌の楽しさだ。その楽しさや鮮烈な哀しみを受け止める選になったと思う。

宮柊二は戦争を体験したのち、日常の些事の一つ一つを慈しみ問いかけ続けた作家だ。今日のような激動の時代をしっかりと見、問うためにも読み直したい。その契機としても心に残った大会だった。

川野　里子（かわの　さとこ）

１９５９年大分県生まれ。千葉大学大学院修士課程修了。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。山形県、カリフォルニアなどを移り住みつつ作歌、評論、エッセイを書く。

歌集に『太陽の壺』（第13回河野愛子賞）、『王者の道』（第15回若山牧水賞）。『硝子の島』（第10回小野市詩歌文学賞）、『歓待』（第71回讀賣文学賞）、『天窓紀行』など。

評論に『幻想の重量―葛原妙子の戦後短歌』（第６回葛原妙子賞）、『七十年の孤独－戦後短歌からの問い』（書肆侃侃房）、『鑑賞葛原妙子』（笠間書院）など。

歌誌かりん編集委員。読売新聞西部歌壇、日本農業新聞選者など。立正大学、放送大学非常勤講師。平成20年度、21年度NHK教育放送「NHK短歌」選者。

【選者のことば】

短歌の魔法のちから

宮里信輝

第二十七回宮柊二記念館全国短歌大会の選者をつとめさせていただき、まことにありがとうございます。前回第二十回に続き、今回で二回目となり大変光栄です。

前回にも書きましたが、私は二十歳前後のころ、岩波文庫の『宮柊二歌集』を読み、「楓のプロペラ型の実を見れば南風うけつつそよがぬぞなき」「花のやうに日暮の鳥屋に眠りゐる鶏を姉とわれと見てゐつ」「夜に聴けば矢振間川の川の音の魚野川にそそぐ音きこゆ」「月光の白く射し染む鉄の扉にふかく彫られて何の花ぞも」などの歌に、青春時の言い難いこころをうるおされ癒やされ、宮柊二主宰の「コスモス短歌会」に入会しました。以後五十数年日々勉強しております。ますます短歌のちから、その世界のふかさ、ひろさにおどろかされる毎日です。

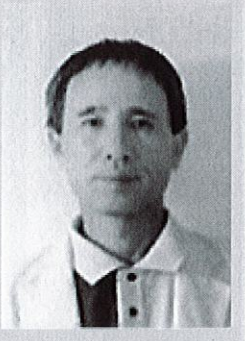
そのようななかで、今回の選をさせていただき、小学生、中学生、高校生、一般の方々の多数の歌を通し、そのさまざまなこころに一度に向かい得たことは、前回にも増して貴重な勉強、体験になりました。

短歌大会は今は日本中にたくさんあると思いますが、小、中、高のジュニア部門がこんなにたくさん集まる短歌大会は少なく、たいへん貴重です。宮柊二先生の歌のちからだと思います。夏休みの課題で苦しんで作っている歌が多くありましたが、必ずこれからのちからになると思います。一般の部９７９首、小学生の部１，８６９首、中学生の部５，０５１首、高校生の部４，６４０首、計１２，５３９首の厖大な短歌、一首一首全力で拝読いたしました。

結果はこのようになりましたが、大変な厳選です。参考にしていただき、ますます短歌に親しみ、詠んで下さい。

短歌は年齢、男女、職業等を問わず、万人がその自分独自のこころを表現できる、魔法の詩型で、求めれば求めるほど奥ふかく、そのちから、世界は限りがありません。

宮里　信輝（みやさと　のぶてる）

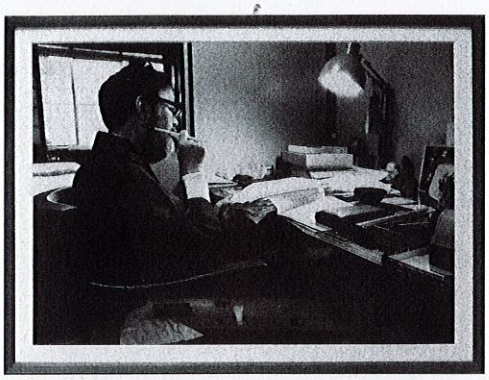


1949年　鹿児島県西之表市生まれ
　　神戸を経て、現在神奈川県在住
1970年　「コスモス」短歌会入会
1973年　第10回桐の花賞受賞
1986年　歌集『青世界』上梓
1992年　第38回Ｏ先生賞、第39回コスモス賞受賞
2003年　歌集『紫陽花時間』上梓
2011年　第33回随筆賞受賞
2013年　歌集『花迷宮』上梓
2014年　歌集『デーモンの心臓』上梓
現　　在　「コスモス」選者、編集委員、神奈川支部長
　　現代歌人協会会員
　　厚木市森林づくりボランティア協会会長

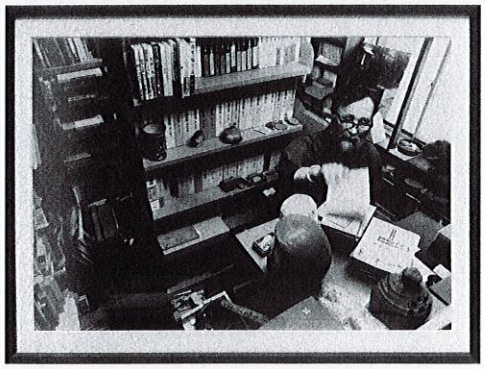
No.56 宮柊二記念館収蔵資料紹介

宮柊二記念館だより第52号（2020.3.25）に掲載した『書斎にて』、同じく第54号(2021.3.25)に掲載した『書庫にて』と一緒に、宮柊二ご長女片柳草生さんより寄贈いただいた写真です。

３点並べて第２展示室に展示しています。ぜひご覧ください。



『書斎にて』

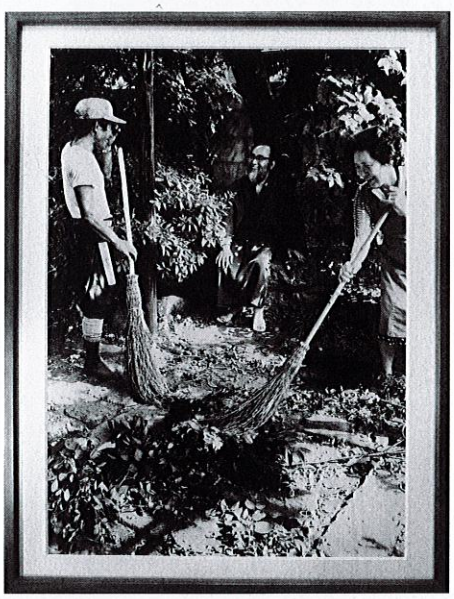


『書庫にて』

宮柊二写真
（令和元年度新資料）

『冬の庭仕事』

文芸春秋 昭和53年11月号
「日本の顔」より



「短歌大会入選作品集」のお知らせ

宮柊二記念館では、毎年実施している「宮柊二記念館全国短歌大会」の入選作品集を作成しています。作品集は、短歌大会応募者にお届けするほか、希望者にも差し上げています。令和三年度・第二十七回短歌大会の入選作品集は、宮柊二記念館だけでなく、魚沼市内の公民館等でも入手できます。過去の作品集についても年度によっては若干の余裕がありますので、ご希望の方は宮柊二記念館にお尋ねください。

「宮柊二記念館短歌教室」のお知らせ

宮柊二記念館では、「短歌教室」を開催しています。

四月・八月・十二月を除く年九回、原則として毎月第二日曜日に魚沼市堀之内公民館で開催しています。指導者は、「コスモス」選者の橘芳園先生です。

五月から始まる令和四年度の教室参加者を募集中です。対象は中学生以上、年度途中での入退会、添削のみの参加も可能です。

年会費は3，000円。申し込みは、宮柊二記念館までお願いします。

「宮柊二記念館友の会」のお知らせ

「宮柊二記念館友の会」は、宮柊二記念館の活動支援と会員相互の交流を目的に結成されました。

会員には、宮柊二記念館の入館料が免除されます。また、記念館だよりをお届けするほか、各種事業のご案内をいたします。

令和四年度の会員を募集中です。年会費は1，000円。詳細は、宮柊二記念館にお問い合わせください。

宮柊二記念館だより　第56号
発　行　2022. 3. 25
問合せ　宮柊二記念館（〒949-7413　新潟県魚沼市堀之内117-6）　TEL･FAX　025－794－3800
メール miya-museum@city.uonuma.lg.jp　ホームページ https://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji/